

広島中央ロータリー・クラブの歴史 —その変遷と進化—

第1500回記念例会卓話

RI第2710地区「クラブビルダー賞」受賞の機に

田原 榮一

在広ロータリー・クラブの創立年と会員数

広島RC	1932(75)	125
広島南RC	1956(55)	90
広島東RC	1959(52)	94
広島東南RC	1960(51)	90
広島北RC	1969(42)	78
広島西RC	1990(41)	83
広島中央RC	1978(33)	59
広島西南RC	1986(25)	61
広島陵北RC	1991(20)	40
広島城南RC	1955(15)	40
広島廿日市RC	1995(16)	45
広島安芸RC	1992(19)	36
広島安佐RC	1999(12)	21

広島中央ロータリー・クラブの歴史とその変遷

第一期—1978-88年、創始期：

昭和53年11月28日、広島東南RCをスポンサークラブとして、23名のチャーターメンバーで誕生。明るく和やかなクラブとして、10周年で67名の会員に発展。

初代会長：高石 稔、副会長：柚木 宏、幹事：柚崎 博

創立10周年記念会長：柚崎 博、副会長：朝枝七郎、幹事：浜田逸朗

実行委員長：高石 稔

現会員：高石、山村、柚木、久野瀬、熊野、津久江、神保、田原、杉本、深瀬、金井、浜田、谷平、栗栖、赤羽、原田(16名)

記念式典には、小笠原広島県副知事、荒木広島市長、松尾ガバナー、甲斐広島東南RC特別代表から祝辞。尚、記念事業として広島中央RC

国際交流基金500万円の創設と財団法人アジア学生文化協会に100万円を寄付。



第二期—1989-1999年、発展期：

「明るく和やかなクラブ」の伝統を重んじ、サンタローザ・サンライズRC学生来広（1991）や台中西区RCとの姉妹提携（1992）による国際交流、広島中央RCをスポンサー（柚木特別会員）として広島城南RC誕生（1995）、RI第2710地区第4分区IMホストクラブ：城本正昭分区代理（1996）、等の数々のクラブ活動により、74名の会員を数えるまでに成長。

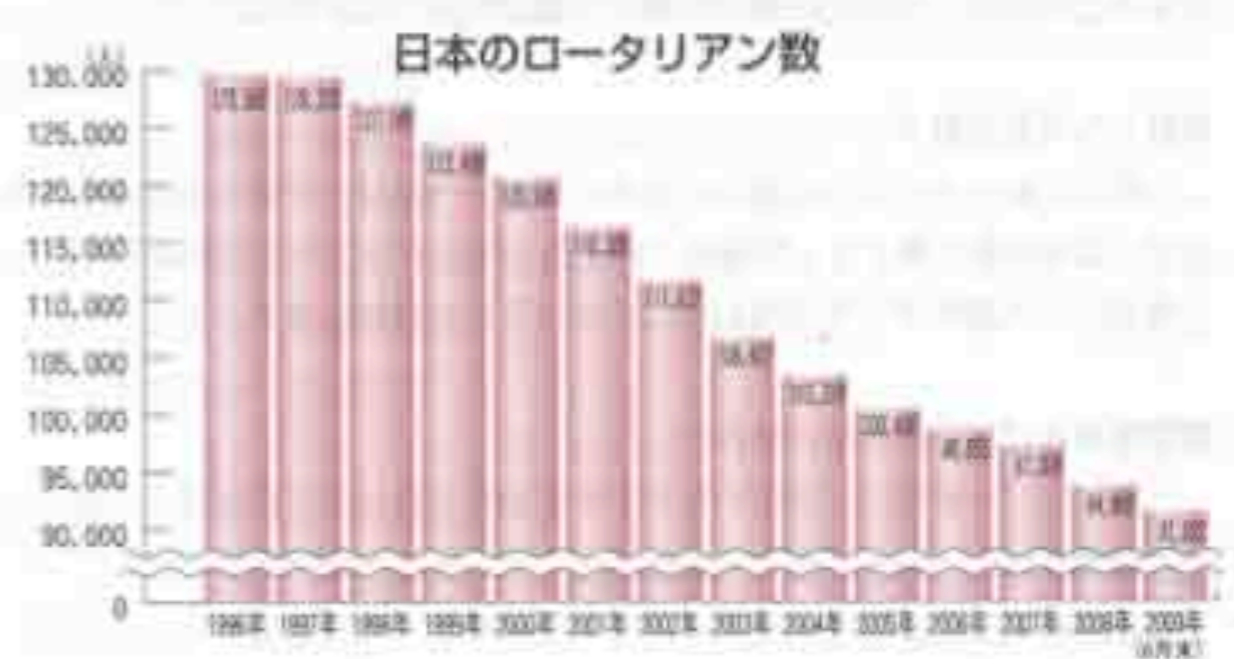
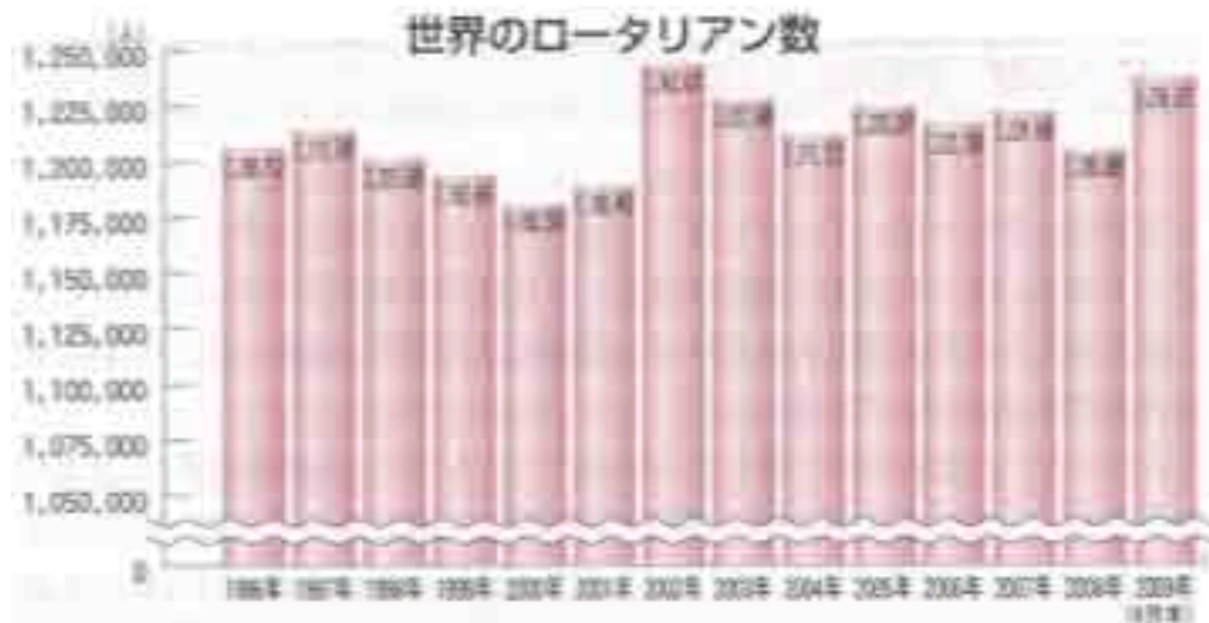
創立20周年記念会長：増原重己、副会長：高重清純、幹事：原田啓吾
実行委員長：山村忠次

尚、記念事業として、財団法人広島交響楽協会の創立20周年記念演奏会開催費用よして400万円、平和記念公園への21メッセージ運動100口、財団法人広島がんセミナー研究活動費として100万円をそれぞれ寄付。

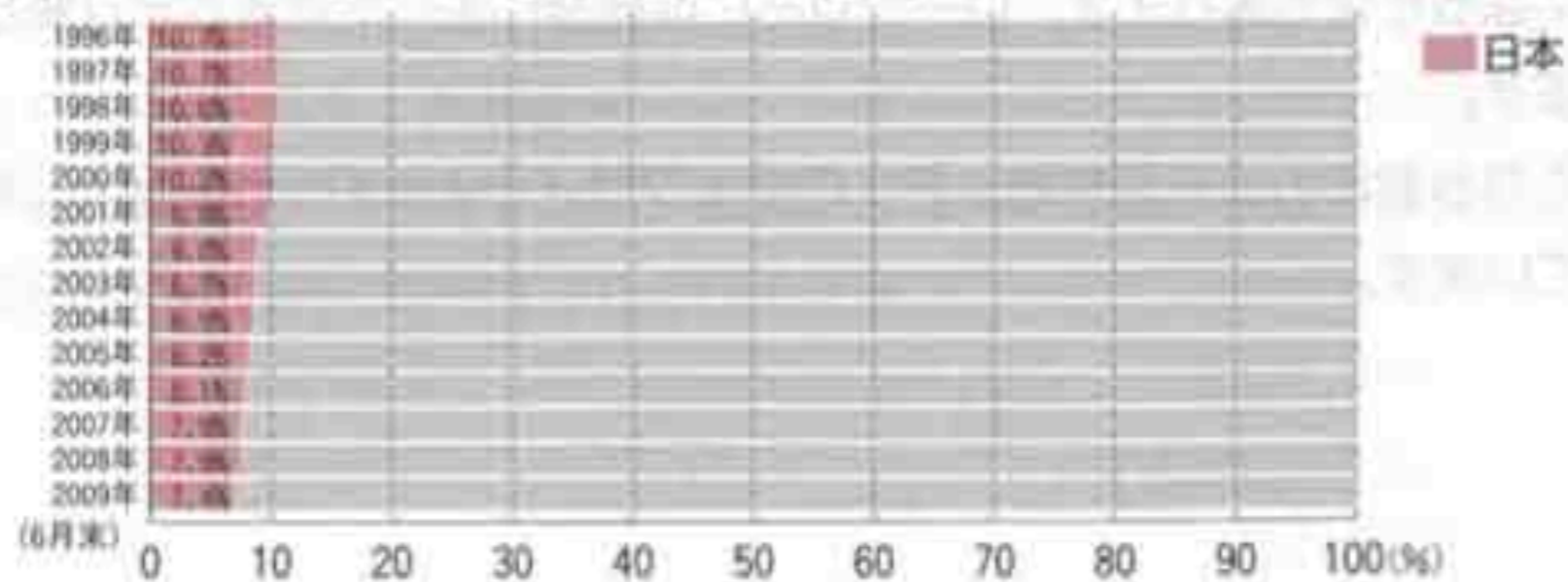


広島中央RCと台中西区RCの奥様方が一同に

ロータリアン数の変換



世界のロータリアン数に占める日本のロータリアンの割合



第三期—2000-2009年、苦難期と改革：

2000年に11名の退会者により会員が減少し、2004年には51名迄に落ち込む。その結果、クラブ運営財政難が発生。DLPの導入により2002年松本ガバナー補佐。2004年に女性会員入会、2007年CLPの完全導入によりクラブ組織の改革。2008年資料保存可能な誇れるHPが完成、2008年田原ガバナー補佐によるG6・G7合同IM開催とRLI-2710分科会研修を立ち上げる。

創立30周年記念会長：橋本 満、副会長：藤村欽吾、幹事：砂田龍吾
実行委員長：緒方俊平

尚、記念事業として、おやじフォーラムin広島の主催、防犯パトロールカー一台寄贈、防犯用織300セットと防犯用チラシ4000枚の寄贈、米山記念奨学会へ10万寄付。



第四期—2009年から—改革と進化：

2007年CLP導入によりクラブ管理組織委員会の改革により、各委員会の相互関係・連携が蜜となり、長期プロジェクト検討委員会が核となり、多くの斬新的な奉仕活動が企画・実践されている。

2009年度から長期プロジェクトの「マイカー乗るまあデー」運動を含む「エコー・ドリーム運動」や「献血運動」がスタート。

2011年度から長期プロジェクトの新事業の「研修セミナー」と「新世代奉仕の出前講座」が開始予定。更に「認知症」や「マッチング・グラント」等への取り組みが検討されている。我が広島中央ロータリー・クラブは明らかに進化している。

更に、RLIが軌道に乗る。

2011年、RIの新たな賞、第2710地区「クラブビルダー賞」を田原が受賞。

地区リーダーシップ・プラン (District Leadership Plan, DLP) と クラブ・リーダーシップ・プラン (Club Leadership Plan, CLP)

- * **DLP**の目的は地区レベル、クラブレベルでロータリーを強化・充実する。2002年全ての地区で採用義務化される。
- * DLPの具体的実施計画は、**ガバナー、ガバナー補佐、地区研修リーダー、地区委員会の責務と相互連携**を確立。
- * **ガバナー補佐**は、クラブ会長エレクトの効果的なクラブ目標の設定を援助し、ガバナー公式訪問の日程・計画書作成の支援し、且つクラブ協議会に出席する。第2710地区G6・7ではIMを主催する。また、四半期に一度クラブを訪問して、クラブ指導者と協議する。その上、**RLI研修リーダー**として関与する。
- * DLPは、DLPに対応する地区内クラブのための**CLP**の推進。
- * **CLP**の目的は、**効果的なクラブとなる4つの要素**を提供して、クラブを強化すること。即ち、**効果的なクラブ**になること。

効果的なクラブとなる四つの要素



RI元理事ロン・パートン（元LDT委員長）

“The Rotarian” 2004年6月号に掲載

2007年、我がクラブは、CLP完全導入により、クラブ理事会は
会員組織（会員増強・退会止）、奉仕プロジェクト、ロータリー財団、
クラブ広報、クラブ管理運営の5つの常設委員会から構成。



ロータリーの樹

ロータリー財団

社会奉仕

国際奉仕

職業奉仕

新世代

奉仕の理想

奉仕の理想

ロータリーの綱領・四つのテスト

親睦—クラブ奉仕—助け合い

超我の奉仕

最もよく奉仕をする者、最も多く報いられる

CLPに於ける9段階の実行策

- 1。効果的なクラブの要素に取り組む**長期計画**を立案する。
—長期プロジェクト検討委員会の活性化(2009)—
- 2。長期目標を支える**年次目標**を設定める。
- 3。**クラブ協議会などの会合を通じて会員全員**が、クラブ活動に参加していることを実感出来るようにする。
- 4。クラブ内及び地区との情報伝達をガバナー補佐や地区指導者を通じて円滑に図る。
- 5。引継ぎ計画を含め、クラブの指導力と奉仕プロジェクトに**継続性**を持たせる。
- 6。独自のクラブ運営を反映させるべく、クラブの長期計画や**クラブ細則を適宜修正**する。
- 7。クラブ会員間の**親睦を深めるような奉仕と親睦の機会**を提供する。
- 8。会員全員がクラブのプロジェクトや奉仕活動に**活発に関与**するように計画する。
- 9。**包括的な研修プラン**を企画し、指導者を育成する。

—RLI(2009)と研修セミナー(2010)—

ロータリー・リーダーシップ研究会 Rotary Leadership Institute (RLI)

- 1。1992年にアメリカ・ニュージャージー州(第7510地区)から始まったRLIは、ロータリーに関する知識を啓発し、また、将来のロータリアンの指導者を育成するための全世界の地区と地域の連合体組織。
- 2。RLIは、現在、日本国内では、第2750地区、第2830地区、第2770地区、第2710地区で採用実施。RLI設立の背景には、ロータリーに関する知識の乏しいクラブ指導者が多いことがある。
- 3。RLIは、指導力のあるロータリアンになる素質を磨きあげる手段として、**草の根指導カブプログラム**を採用。その研修方法は、草の根デイスカッション方式。**ロータリーに関して、ロータリアン一人ひとりの意見を自主的に引き出して、意見を交換して話し合い、自分たちの力でロータリーへの理解を深めていく方式)で行なわれ、カリキュラムは3コースからなる研修プランからなる。**

- * 2008年9月、川妻PG, 大旗AG, 田原AG、小佐古会員等によりロータリー・リーダーシップ研究会の立ち上げ後、第2710地区RLI準備委員会、RLI-2710 デイスカッション・リーダー研究会等が開催。
2009年2月、**第1期RLI-2710分科会研修PartI**(広島都市学園大学)がスタート。次いで、PartII(2009, 4/10), PartIII(2009, 7/26)卒業プリプログラムが開催され、参加者48名(古沢会員を含む)とDL18名に南園RLI日本支部委員長から卒業証明書が授与された。
- * 2010年度の**第2期RLI-2710分科会研修**にも田原はDLとして関与。藤村会長ノミニニーが参加。2011年度の**第3期RLI**には河野会長が参加。

Part I

- セッション1: 総論
- セッション2: リーダーシップ I 良いリーダーの資質は？
- セッション3: クラブレベルを超えて ロータリーの組織構造
- セッション4: メンバーシップ 会員維持のために
- セッション5: リーダーシップ II クラブのリーダーが指導力を学ぶ方法
- セッション6: 財団 ロータリー財団が大切な理由
- セッション7: 奉仕プロジェクト 社会奉仕プロジェクトを立案する

Part II

- セッション1: 総論
- セッション2: リーダーシップ III 委員会でどのようにリーダーシップを学ぶか？
- セッション3: 職業奉仕 職業奉仕とは？
- セッション4: メンバーシップ II 質の高いメンバーをいかに獲得するか？
- セッション5: 財団 II シェアードプログラム
- セッション6: クラブ例会を計画立案する 効果的なロータリー例会の要素は？
- セッション7: クラブの棚卸をする

Part III

- セッション1: 総論
- セッション2: 国際奉仕 クラブが国際奉仕プロジェクトへ参加する方法
- セッション3: ロータリーのプログラム "Service Above Self"精神をどのように実践へ結びつけるか？
- セッション4: リーダーシップ IV 人前で話す
- セッション5: 奉仕の実践 "Service Above Self"精神を実践へとどのように結びつけるか？
- セッション6: 広報 ロータリーという事をどのように人々に知ってもらうか？
- セッション7: RLIの分析検討 どうしたらベターにできるでしょうか？



今後、我々の「魅力あるクラブ」創りの取り組みは？

「魅力あるクラブは、活気あふれた例会と意義あるプロジェクトが基本要素です」（中山義之、横浜南）

- 1。我がクラブの創始期の原点「明るくて和やかなクラブ」の再構築のために、会員増強と構成に取り組む。因に、1999年迄には、多くの質の高いレベルの実業家が在録。即ち、
「量のある質」素晴らしいロータリアンの多いクラブを目指して。
- 2。例会は「自己研鑽の場」である。例会の場を通じて、ロータリーの理念とロータリー情報を学び、他のロータリアンとの相互信頼・親睦を深める場である。この例会におけるロータリアンの活動が「親睦」である。社会のニーズに適した質の高い卓話を含めて、
「より明るくて和やかな例会」への進化が必要。
- 3。地球環境や超高齢化社会のニーズに適した長期プロジェクトを
実践、継続する。特に「エコドリム運動」を地区全体に展開、
国際的な人道的プロジェクトを遂行



いいね!

2010-2



Hiroshima
Center
Rotary
Club

ENTER

メインページはこちら



本日の広島中央RCの予定

2011
6/1
Wednesday

00:00 AM
他クラブ例会変更

今月の予定と例会変更

本日の他クラブ例会会場の案内

広島東RC : ホテルグランヴィア広島

広島阪北RC : リーガロイヤルホテル広島

広島中央RCの例会記録

第1499回例会記録

2011年05月23日 月曜日

リーガロイヤルホテル広島

会員卓話

「チェルノブイリと福島」

例会記録を見る

第2710地区G7・RLI

第2期RLI-2710分科会研修
Part III及び卒後プログラム報

2010年08月01日 日曜日

つづきを読む

第2710地区G7・RLIを見る



A Monthly Picture

「18ホールを終えて」

緒方俊平 君：ゴルフは、その18ホールの展開が、人生そのものに例えられます。この作品は、18番ホールを終わってクラブハウスである家路につく場面を描きました。大きな満月がグリーンを照らし、まずまずのフィニッシュだったかと充足しているゴルファーの楽しい終わり方を表現しました。人生もこう願いたいものです。



日本赤十字社 広島県赤十字血液センター

今後,我々の「魅力あるクラブ」創りの取り組みは？

4。我がクラブのHP,IT そして会報は著しく進化し、ロータリークラブとして誇れる業績である。今後、HP,ITをじて通じて、クラブ内外の情報をサーチする。また、我がクラブの会報が第2710地区の情報発信の核として進化できるか？

5. 同好会の活性化

*ゴルフ (1979) 17名

*囲碁 (1980) 10名

*マリンアドベンチャー (1980) 15名

*野球 (1982) 11名

*美術 (1990) 20名

*ロンガラス絵画 (1992) 15名

*料理 (2008) 15名

*音楽 (2010) 16名

*ワイン (2011) ?



国際大会が終わると、新しい年度はすぐそこまで来ています。RI会長エレクトのレイ・クリンギンスミス氏は、

「私は、これからロータリーをできるだけシンプルなものにしていきたいと考えています。カウボーイ・マジックの3つの原則がロータリーにも当てはまると思いました。

特に、自分の仕事に誇りをもて、ということです。成功するクラブは、すばらしいプロジェクトを行っていて、それによって会員が誇りをもつことです。プロジェクトが地域社会で顕著なものになったときに、地元の人たちもロータリークラブを認識するようになります。そして、入会の推薦を受けてくれるようになります」と、プロジェクトの重要性について述べました。

また、「ベストプラクティスは何なのか。これからのベストプラクティスは何であるのか、効果と効率を考えていかなければいけません。奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップという5つの中核となる価値観は、私たちの存在の基本です。私たちの中核となる価値観は売ることのできないものです」と述べました。

そして、過去一年間、私は、クラブ、地区、ゾーン、国際ロータリーを革新する文化を築き上げることを考えてきました。世界が変わっているのですから、私たちも変わらなければなりません。ロータリーが改革され、ロータリーの精神を全面的に打ち出して、もっと地元で、世界で、第2の奉仕の世紀を迎えることです」と、未来に向かって改めるべきことは改めることを強調しました。

「私たちの第2の世紀は、親睦、奉仕によってロータリーがマジックとなり、力となるのです。私たちの第2世紀は、親睦と奉仕を保っていかなければいけません。そこに、改革性、更新する気持ちを付け加えれば、ロータリーの最も良い時代が、これから訪れることになります」と結びました。

ポール・ハリスの言葉

私の知る限りでは、ロータリーには「できない」と「できる」との葛藤で、「できない」が永遠の勝利を収めたことは一度もありません。広大なビジョン、崇高な目的は必ず勝利を収めます。

1930年RI国際大会でのメッセージ

今後、我々は、一人一人が、ロータリーの真の姿「ESS」、即ち、例会で、「奉仕の理想と本質」を十分に理解し、共に楽しく(E, enjoy)且つ学び(S, study)し、そして、会員全員が時代に適応した多様性のある奉仕活動(S, services)を継続し進化する。将に、ESSを実践することにより、広島中央ロータリークラブとしての特徴と高潔性のあるクラブに発展することを心から期待する。